

減災のための目標（案）について

太田川水系における水害の特徴

- ①河口から市内派川との分派地点までの下流デルタ域は、低平地のゼロメートル地帯となっており、堤防の決壊による氾濫流の拡散や高潮被害に対し、広範囲に浸水する。
 - 下流デルタ域は広島市街地であり、経済・産業の中核を担う区域が浸水する。
 - 観測史上最大潮位が発生した平成16年9月には**高潮被害が発生**
- ②下流域は貯留型の特性を有する区間に宅地化が進み、近年、内水はん濫被害が発生
 - 平成17年9月、平成22年7月洪水では、**支川矢口川合流点付近で内水被害が発生**
- ③太田川の中流部には、蛇行を繰り返す太田川と背後の山との間にある狭小な土地に集落が点在し、氾濫によって、点在する集落が孤立化する恐れがある。
 - 平成17年9月洪水では、**床上被害が発生**
- ④分派地点から支川三篠川・根谷川の合流点上流付近までの下流部は、広島市街地のベッドタウンとして急速に宅地化が進行し、堤防が決壊すると氾濫流が貯留し、浸水深が深くなる。
 - 下流域は浸水区域のほとんどが宅地である。
 - 平成26年8月洪水では、**支川根谷川で浸水被害が発生**



地域別の氾濫特性を踏まえた、適切な目標と取組方針の設定が重要

減災のための目標（案）

● 5年間で達成すべき目標

太田川水系河川整備計画に位置づけられる事業の早期完成に向け事業推進を図りつつ、大規模水害に対し、地域別の氾濫特性を踏まえたハード・ソフト対策を推進し、「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指す。

※大規模水害

…想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水氾濫による被害

※逃げ遅れ

…立ち退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態

※社会経済被害の最小化

…大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に再開できる状態

■ 上記達成に向けた4本柱の取組

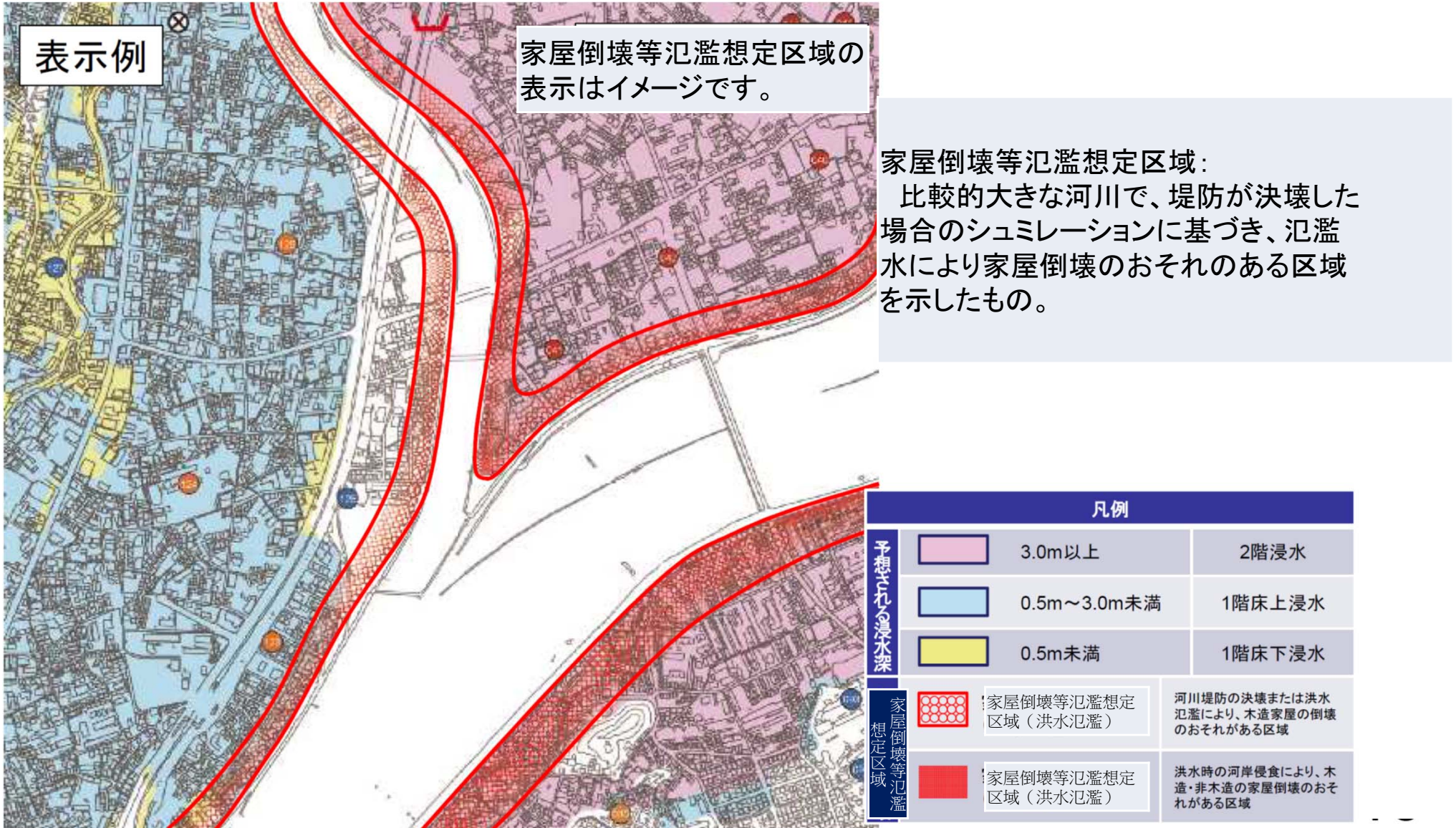
1. 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組
2. 地域別の氾濫特性に応じた効果的な水防活動
3. 浸水を一日も早く解消するための対策
4. 温井ダムの徹底的利用、効果的な運用

○迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

～ 情報伝達、避難計画等に関する事項 ～

タイムラインやハザードマップの作成

■想定最大規模降雨による洪水の浸水想定を踏まえたタイムラインやハザードマップの作成に取り組む



○迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

～ 情報伝達、避難計画等に関する事項 ～

河川のリアルタイム映像の提供環境の整備

- 出水の規模が大きくなると、温井ダムによる洪水調節や高瀬堰、大芝・祇園水門の操作を行う。
- これらの施設運用は、沿川住民に迫り来る危機を認識していただくために有効であり、リアルタイムの映像情報を配信することで住民の迅速な避難が可能となる。
- 映像情報を関係自治体へ配信するよう検討を行う。

避難の参考となるダムや河川の状況(イメージ)



例:温井ダムの洪水調節



例:高瀬堰の放流(増水注意)



例:太田川ゴルフ場(高水敷)の浸水



例:広島市内の浸水

雨の降り始め

0hr

6hr後

12hr後

18hr後

24hr後

時間軸はイメージ

～ 平常時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項 ～

堤防越水時の破壊力に関するイメージ動画の作成・公開

- 太田川から越水した流水の破壊力について、直感的に分かりやすい動画を作成・公開することにより、堤防から越水した流水の破壊力について、直感的な注意喚起を促す。

○地域別の氾濫特性に応じた効果的な水防活動

～ 水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する事項 ～

水防団や地域住民が参加した重要水防箇所等の合同点検

■重要水防箇所、危険箇所について、河川管理者、水防団、地域住民が共同で点検を行い、情報の共有を図る。



重要水防箇所合同点検(大芝管内)
平成24年5月25日



河川合同点検(己斐管内)
平成27年11月4日



河川合同点検(可部管内)
平成27年11月12日

関係機関が連携した実践的な水防訓練

■例年実施している関係機関が連携した水防訓練について、更なる実践的な訓練を行う。



太田川水防演習 平成18年5月21日
(小瀬川流域の市民も参加※声掛け)



矢口排水機場 合同訓練 平成24年



安佐南消防署主導
水防技術習得訓練 平成24年5月20日

○浸水を一日も早く解消するための排水対策

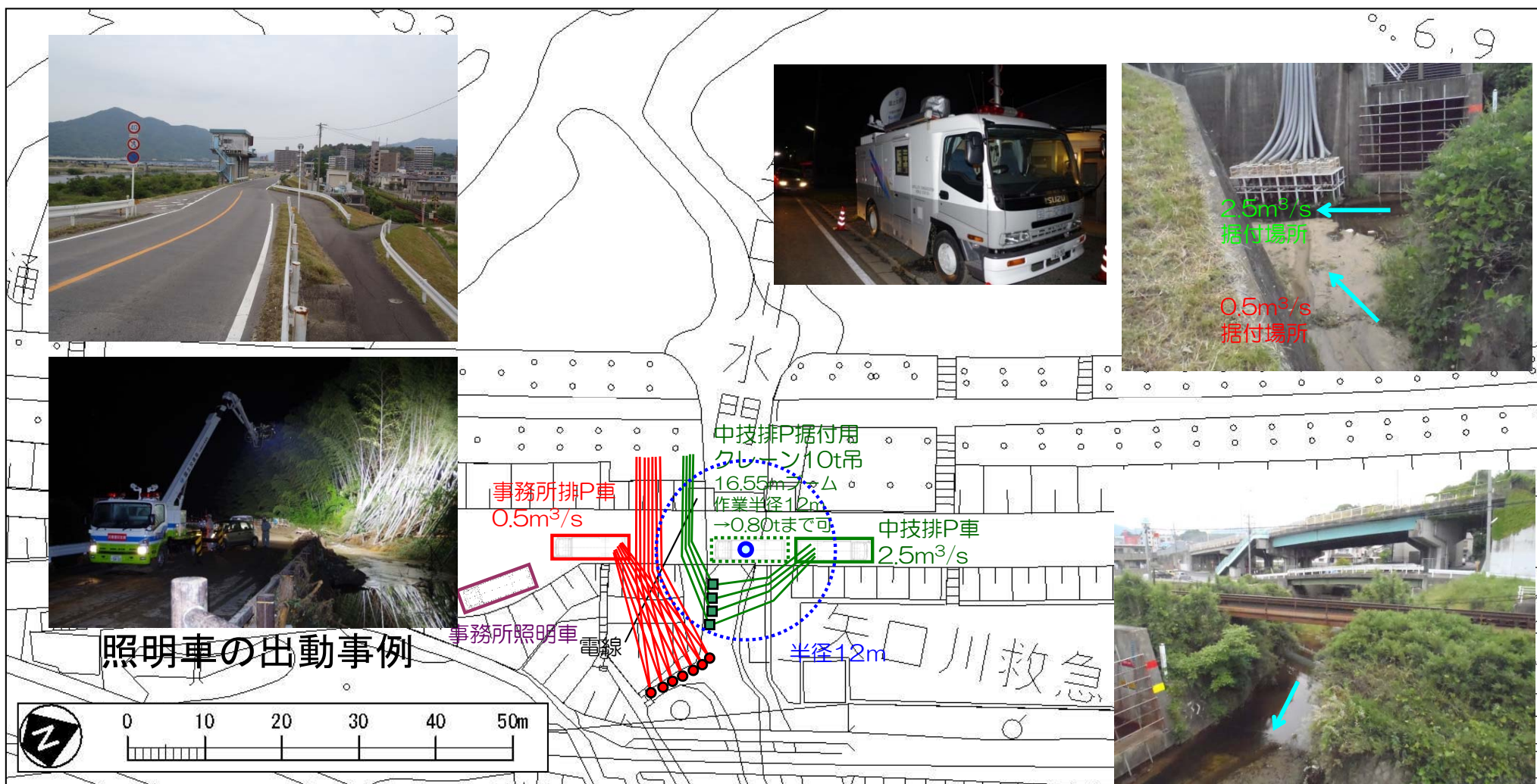
～ 氾濫水の排水、施設運用等に関する取組 ～

大規模災害を想定した排水計画(案)の作成

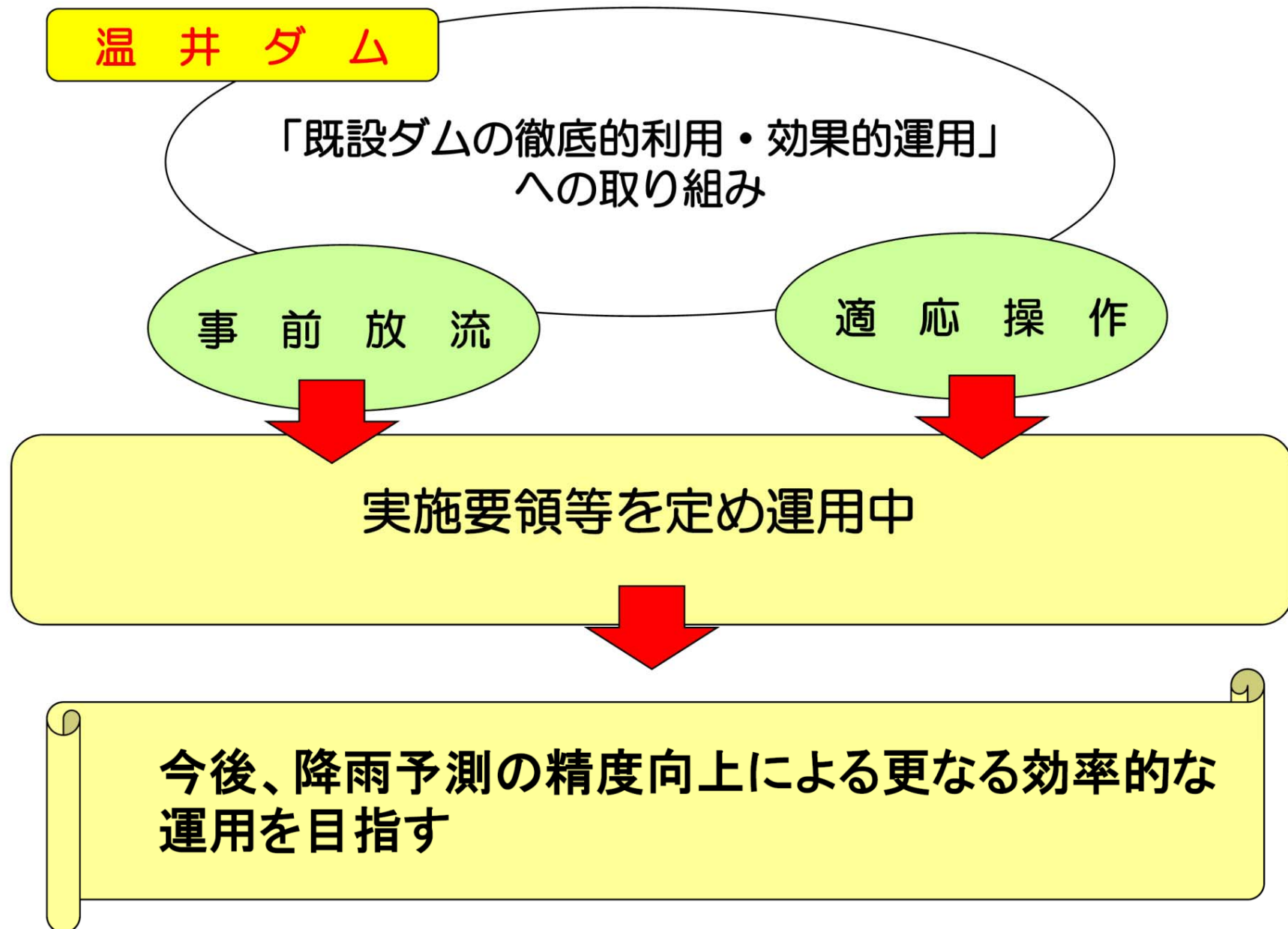
■ 既往洪水の状況から想定される浸水箇所について、排水ポンプ車の設置位置や運搬ルートの確認等、総合的な排水計画を作成する。

排水計画(イメージ) : 11K400左岸 矢口箇所

※現状のイメージである。



温井ダムの徹底的利用・効果的運用 — 事前放流と適応操作



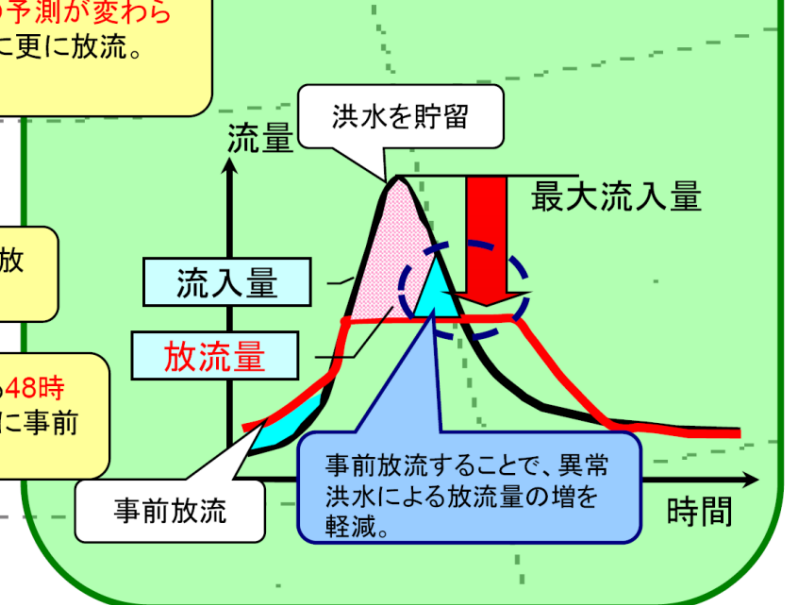
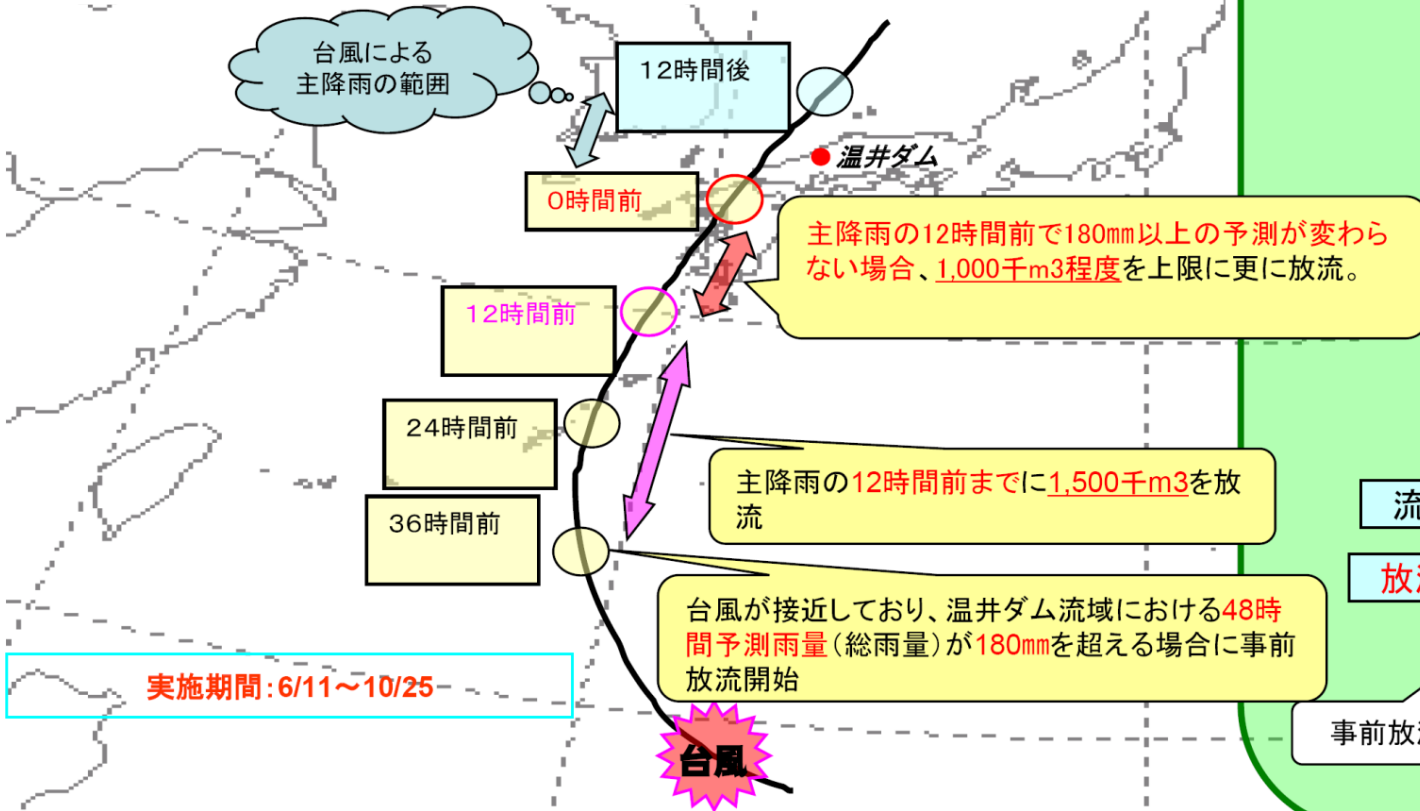
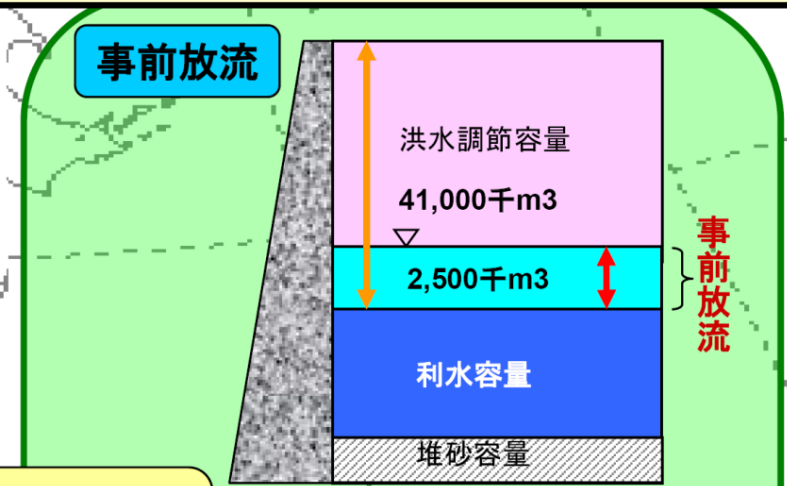
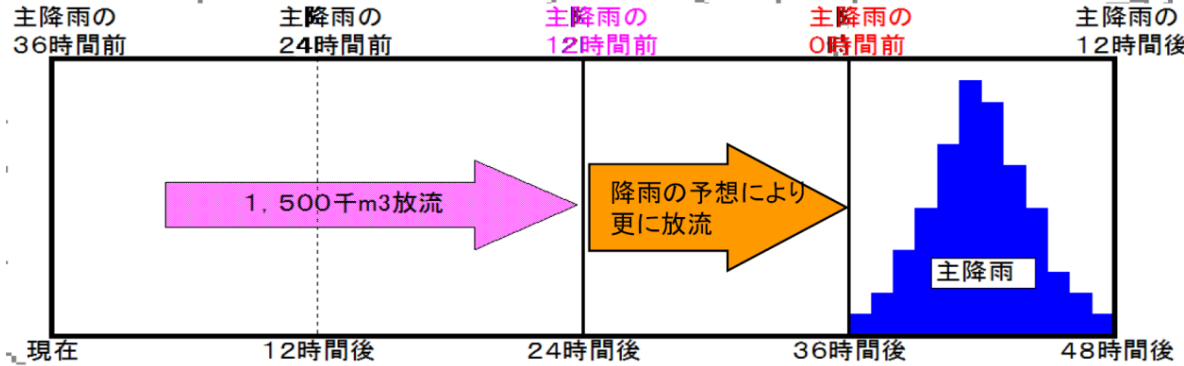
温井ダムの徹底的利用・効果的運用 — 事前放流

事前放流とは・・・

ダムの計画規模以上の大きな出水が予測される場合に、
 利水容量一部を治水容量として有効に活用する操作。

○温井ダムでは、異常洪水に備えてH20年度から事前放流の運用を開始。

○台風による洪水が予想される場合に、最大で250万m³を事前に放流し洪水調節容量を増加させる。



温井ダムの徹底的利用・効果的運用 — 適応操作

適応操作とは・・・

下流の被害を軽減するため、ダム下流の水位状況に応じて、今後の降雨量を勘案しながらダムの残貯水量を有効に活用し、放流量を規定より減じる操作。

適応操作移行への判断基準

- ①下流河川管理者等からの要請
- ②下流河川の基準点水位
- ③次の洪水発生への予測
- ④現洪水見通し(雨量ピーク時点)予測
- ⑤貯められる容量 > 今後予測されるダム貯留量 (相当雨量により比較)

操作の体系化

ゲートを有する各ダムにおいて「操作要領」を定めて操作を実施

①適応操作前の状況(7/14 11:04)

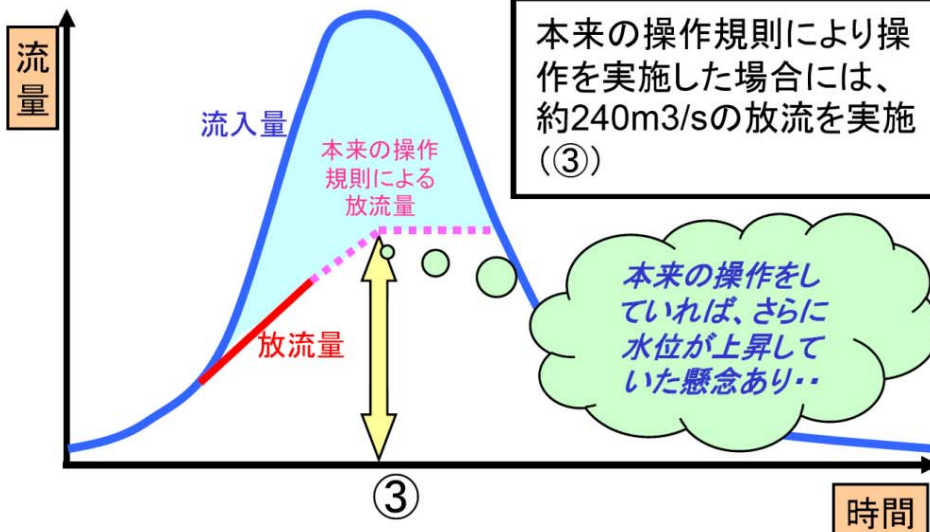


②適応操作後の状況(7/14 16:31)



適応操作の他ダムでの事例(H22.7.14 出水時)

本来の操作規則による操作



適応操作

